令和６年度　卒業制作論文

中国人と日本人が意識する面子の違い

慶應義塾大学

法学部政治学科　安田淳人文科学研究会

指導教授　安田淳先生

学籍番号　32162954

氏名　山田真由

2025 年 1 月 30 日

第一章

日本と中国は古代から現代に渡って非常に深い関係を持っており、漢字や儒教、正月や七夕といった節句など、共通する文化も多い。最近では 2024 年 11 月に、日本人の短期滞在ビザを免除する措置が中国側でなされた。これまでも日本への中国人観光客は多かったが、今後さらに日中間の交流は振興していくであろう。しかし、日中間で人や会社の交流が増えていく一方、両者の文化の違いによる問題も顕在化してきている。

例えば、食文化に関するすれ違いはよく聞く話だ。中国では料理を振舞われた際、最後は少量をお皿に残すのが「お腹いっぱいになりました、ありがとう」という思いを表現するマナーとされている。一方の日本は、提供された料理は全て完食するのが相手への敬意を表現するマナーであるため、共に食事する際はすれ違いが起きる。

他にも実際私が体験した例では、電車内で大声で会話する中国人に出会い困惑した場面がある。しかしこれも、日本ではあまり公共の場において大声で話してはいけない、というマナーがあるのに対し、中国では基本大きな声で話さないといけないマナーがある、という違いがある。声調の関係で、大声で発声しないと正しい言葉が伝わらないから、賑やかで大きな声は元気な証で縁起がいいから、こういった理由で大きな声で話す中国人は日本では理解されがたいかもしれないが、これも古くから根付いてきた文化であると考えれば納得がいく。

こういった日中での文化の違いの中で、私は特に面子の文化に興味を持った。面子とはお互いの国に存在する文化であり、それに対し共通の認識や価値観が存在する一方、確かに相反する面も持ち合わせている。中国では、どんなに相手が悪くても人前では注意してはいけないといった文化がある。人前で叱ることはどんなに相手に非があってもその相手の面子を潰すことになり、それ以降の相手との関係性を悪くしてしまうのだ。日本にも面子の文化はあるが、上記のように人前で注意することが相手との関係性を一巻の終わりにしてしまうほどのものではないだろう。

このように、共通する文化の中に微妙に存在する差異は、思わぬところでのすれ違いや問題を起こしやすい。私は本研究において、日中の面子を理解し、そこに存在する微かな文化の違いを発見することを目的とする。中国社会において面子は、個人間の関係や社会的地位、さらには文化的価値観を反映する重要な概念であり、日常生活からビジネス、さらには外交や安全保障の場面に至るまで幅広く影響を及ぼしている。そのため、日中間の相互理解を深め、関係改善を図る上で、この概念を正確に把握することは極めて重要である。本研究では、日常会話を含む多様なコミュニケーション場面における面子の役割とその表現の特性を明らかにし、日中両者の面子に対する価値観の違いを明らかにしていく。本研究の成果は、実務的な交渉スキルの向上だけでなく、外交や安全保障のような高い緊張を伴う場面においても日中間の関係改善と持続的な友好構築に寄与するものであると考える。

本研究では、中国人と日本人における面子の違いを明らかにし、相互理解を深めるため、以下の手法を用いる。第一に、既存の先行研究や調査結果を精査し、中国人および日本人が持つ面子観の基本的な特徴を体系的に理解する。特に、中国社会における面子が個人や集団の社会的地位、尊厳、関係性にどのように作用しているかを明らかにするとともに、日本において面子と同等の意味で常用される世間という言葉との対比を行う。これにより、両者の文化的背景に基づく価値観や行動原則の違いを明確化し、それが日中間における誤解や摩擦を引き起こしやすい要因を特定する。

第二に、アンケート調査を通じて、中国人および日本人が日常生活や社会的関係において面子をどのように意識しているかを実証的に検討する。調査では、具体的な事例や状況を設定し、両国の回答者がどのような行動や判断を行うかを問い、その結果を比較分析することで、面子に関する意識や行動パターンの違いを明らかにする。また、自由記述形式を用いることで、調査対象者の生の声を収集し、従来の研究では捉えきれなかった微細な感情や意識のズレについても考察する。本手法により、面子観の本質的な違いをより正確かつ具体的に解明し、相互理解の促進に資する実践的な知見を得ることを目指す。

第二章

第一節　辞書上での意味の違い

この章では、日本と中国でそれぞれどのように面子に対する価値観が存在しているのかを調査する。では、面子という言葉はそれぞれの国でどのような意味を持つのか。日本でも面子という単語は中国語での読みと同じく「めんつ」と読まれるが、「子」の発音が「つ」という中国語”cí”から来ていることからも分かるように、この言葉はもともと中国から伝わったものである。英語圏で使われる“face”も中国語から由来するものであるとされている。

日本語の辞典では、面子とは「体面・面目」のことであると記されている[1]。体面とは「名誉」を意味し、面目は「その人（の属する組織・団体）に与えられる世間の高い評価」であるとの記述がある[2]。一方面子（**miàn・zi**）を『現代中国語辞典』で調べると、「体面.名誉.顔」のことである、と記されていた[3]。他の中国語辞典で同語を引いてもおおよそ同じ結果が得られた。また、面子の意味として「フェイス」を併記している辞典もあり、その中には「中国語には“面子”と”脸”の 2 種類があり、前者は個人的な体面を指すのに対し、後者は社会的な名声や評判に関わる対面を指すとしている」との記述もあった[4]。日中どちらの辞典でも「体面、名誉」といった意味が共通しており、定義上面子という言葉の意味に大きな違いは見られなかった。

薛（2019）は、中国人の持つ面子と対比される存在として、日本人には世間という言葉が存在する、と述べている[5]。確かに日本人はよく「世間体を気にして～する」や「世間は許してくれない」といったようにこの言葉を使う。また、上述したように辞典上でも世間という言葉は面子を説明するのに必要不可欠な存在だといえる。世間とは、「人々がたがいにかかわり合って生活している世の中。一般社会。また交際範囲。」という意味である。この語源は仏教から来ており、生き物全般が生活する山河台地を意味する[6]。ここから派生した言葉である世間体は「世間の人々に対する体面・体裁」[7]であり、これは面子と非常に近い意味

---

[1]山田忠雄, 倉持保男と上野善道. 2020. 新明解国語辞典. 第八版. 東京: 三省堂.p.1544

[2] 山田忠雄, 倉持保男と上野善道. 2020. 新明解国語辞典. 第八版. 東京: 三省堂.p.935, 1545

[3] 香坂順一. 1982. 現代中国語辞典. 東京: 光生館.p.851

[4] 日本中国語学会. 2022. 中国語学辞典. 東京: 岩波書店.p.553

[5] 薛鳴. 2019. 人間関係はいかに言語行動に影響するか ―中国語社会と日本語社会の比較から―. 待遇コミュニケーション研究, 16 巻, 特別寄稿

[6] 西谷裕子. 2009. 身近なことばの語源辞典. 東京: 小学館.p.272

[7]池田和臣, 山本真吾, 山口明穂と和田利政. 2023. 旺文社国語辞典. 第十二版. 東京: 旺文社. p.838

を持つことが分かる。

日中両国の辞典における面子という言葉の意味の比較から、私は次のように考察した。中国における面子は、より個人的な名誉に関わる場合が多く、ゆえに時々自己主張を強め名誉を高めるような行動をとるのではないか。一方世間という言葉が浸透している日本では、面子という言葉は中国に比べより社会的な交際に対する体裁を意味し、それは中国語でいうところの”脸”と同義であるともいえる。それゆえ日本では個人の名誉を高めるための行動よりは、集団の中で名誉を損なわないようにする行動が増えるのではないだろうか。

第二節　それぞれの言葉の語源

私は知り合いの中国人から、「日本人より中国人の方が面子を気にする」と言われたことがあるが、実際本当にそうなのだろうか。私が前節で得た考察と同じように、中国人の面子は経済力や能力に対する他者からの評価に関わり、日本人の面子は自分の社会的立場に対する評価に関わる（末田,1993）[8]、など日本人と中国人の持つ面子への価値観の違いには様々な憶測や説が存在している。前節では、日本と中国両国を比較して定義上は面子の意味に関する大きな違いは見られなかった。しかし、意味の大枠は共通していても面子を意識する相手や範囲には違いがあるかもしれないことが考察された。「日本人より中国人のほうが面子を気にする」という定説の答えは、程度の問題ではなくそれぞれ面子を気にする相手や範囲の違いにあるのではないか。

ザン（2019）は、「面子」に関わる要素として「①道徳、②人情、③名声/名誉、④学識、⑤経済、⑥社会地位と評価、⑦才能、⑧外見」の８つを抽出し[9]、日中における面子の語義の違いを論じている。ザンによれば、「中国語の『面子』は上記の 8 つの要素に関わる場面において、集団か個人かに関わらず、全てに使われている。それに対して、日本語の『面子』は、集団場面の①道徳、③名誉に関わるとき、よく使われるが、②人情、⑥社会地位と評価、⑦才能、あるいは個人に関わる場面では、ほかの表現が用いられている。つまり、中国語の「面子」の意味の範囲の方が日本語より広いと考えられる。」という。

この先行研究を踏まえると、前節で立てた仮説のうち、「日本では個人の名誉を高めるための行動よりは、集団の中で名誉を損なわないようにする行動が増える」の部分は正しいといえる。しかし中国における面子は、「集団的なものより個人的な名誉を重んじる」という程度の問題ではなく、「集団も個人も同等に名誉を重んじる」、それほど面子の及ぶ範囲が広い、といえそうだ。

---

[8] 末田清子. 1993. 中国人が持つ面子の概念と日本人とのコミュニケーション. 年報社会学論集, 6 巻, p.199-202

[9] ザンカリン. 2019. 日中の「面子」という語義の異同 に関する調査―実際の使用場面から―. 日本語教育:方法研究会誌. 25 巻, 2 号, p.62-63

「日本人より中国人の方が面子を気にする」という意見には一定の妥当性がある。ただし、それは中国人の面子の適用範囲が広いという性質から来るものであり、日本人が面子を意識しないというわけではない。それぞれの文化に根ざした面子観が異なる形で現れていると言える。

第三章

第一節　普段の日常における面子の意識の違い

ここまで第二章では面子の辞典上の意味の違いや面子を意識する範囲の違いについて論じてきた。これらを踏まえ、〈中国人の面子は適用範囲が広く、個人間や集団内での名誉が均等に重視される。一方日本では、世間体という言葉があるように集団内での名誉を損なわないことを重視する面子観がある。〉という仮説が導き出した。果たしてこれは正しいのだろうか。

この仮説を検証するため、私は中国人と日本人に対しアンケート調査を行い、その答えにどれだけ差異が出るのかを調べた。回答者は中国人が 28 人、日本人が 42 人であった。

まずはアンケート調査の最初の質問として、極めて単純かつ初歩的な質問だが、「您平常会注意自己的面子吗？」、「あなたは普段日常生活において面子を気にしていますか？」という問いを設定した。これに対する結果が図 1，2 である。

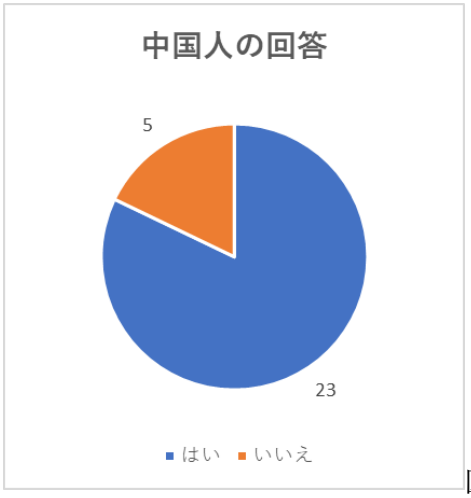

図 1

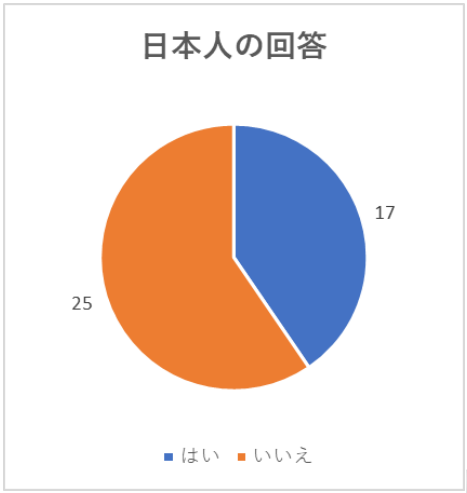

図 2

図 1 の通り、中国人は総回答者数 28 人の 82%にあたる 23 名が「はい」と回答、18%にあたる 5 人が「いいえ」と回答した。ザン（2019）の先行研究によれば、最近の中国人の若者は価値観が多様化し、金銭や学力といった表面的なものより健康的な価値観を重視するようになったことから昔より面子を意識しない人が増えた[10]というが、今回のアンケート調査からはそのような傾向は見られなかった。価値観が多様化してきたとはいえ、古くから伝わる面子の意識はそう簡単には薄まらないようだ。

一方の日本人は、図 2 のように総回答者数 42 人の 40%にあたる 17 人が「はい」と回答し、60%にあたる 25 人が「いいえ」と回答した。

---

[10] ザンカリン. 2019-2020. 中国人における経済力と能力に関わる面子意識についての調査. 日本語教育方法研究会誌. 26 巻，1 号, p.56-57

中国人はそのほとんどが日常生活において面子を気にすると回答したのに対し、日本人ではその割合が半数以下であったことも、日中間での面子の違いが顕著に表れていると言える。

第二節　面子を意識する場面の違い

次に、質問Ⅱでは、仮説が正しいのかを検証するため、面子維持行為として以下の６つの例を挙げ、最も共感するものと、最も共感しないものを１つずつ選択してもらった。また、それぞれ選択時の理由も述べてもらった。

例①．お土産を渡す時はなるべく高価で大きなものを渡す
例②．自分が奢られた金額より高い食事を相手に奢る
例③．後輩にとある理論について知っているか聞かれ、本当は知らないが多少知識のあるふりをする
例④．気の知れた仲の人たちの集まりでも衣服に気を遣う
例⑤．グループワークの中でミスをした際は責任を認め直ちに謝罪する
例⑥初対面の複数人との議論の場では自己主張しすぎず建設的な意見に留める

例①～③は個人、集団の中で名誉を高める行為、例④～⑥は集団の中で名誉を損なわないようにするための行為の例として私が独自に考えたものである。もし私の立てた仮説が正しければ、最も共感するものでは中国人は前半３つを選択する割合が多く、日本人は後半３つを選択する割合が多いという結果が得られるはずだ。

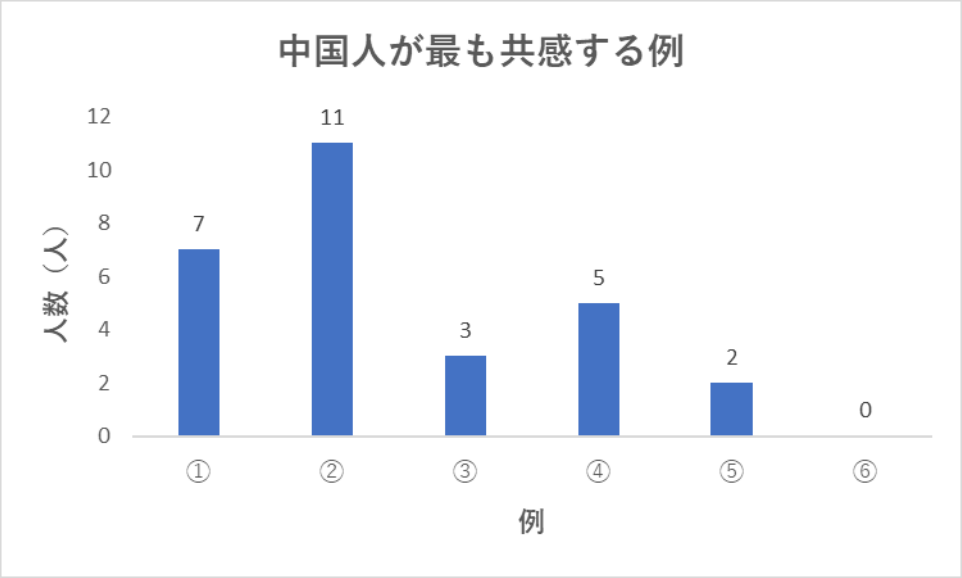

図 3

この質問 II に対し、中国人の回答からは次のような結果が得られた。まず図 3 は「中国人が最も共感する例」の結果であるが、1 位は例②「自分が奢られた金額より高い食事を相手に奢る」で 11 人と最も多かった。次いで例①「お土産を渡す時はなるべく高価で大きなものを渡す」で 7 人、3 位は例④「気の知れた仲の人たちの集まりでも衣服に気を遣う」で 5 人であり、下位は順に例③「後輩にとある理論について知っているか聞かれ、本当は知らないが多少知識のあるふりをする」が 3 人、例⑤「グループワークの中でミスをした際は責任を認め直ちに謝罪する」が 2 人、例⑥「初対面の複数人との議論の場では自己主張しすぎず建設的な意見に留める」が 0 人という結果となった。

例②を最も共感する例として選択した理由としては、「我不想让他们觉得我没有他们那么有声望（相手より格下だと思われたくない）。」「如果不给他们买贵重的东西，那就是不礼貌（高いものを奢らないと相手に失礼）。」というものがあった。例①を選んだ理由も「それが礼儀」や「きちんとした人間であると思われたい」など、例②の理由とさほど変わらなかった。中国人の面子維持行為には、「相手に舐められたくない」という行動原理の存在が大きいと考えられる。

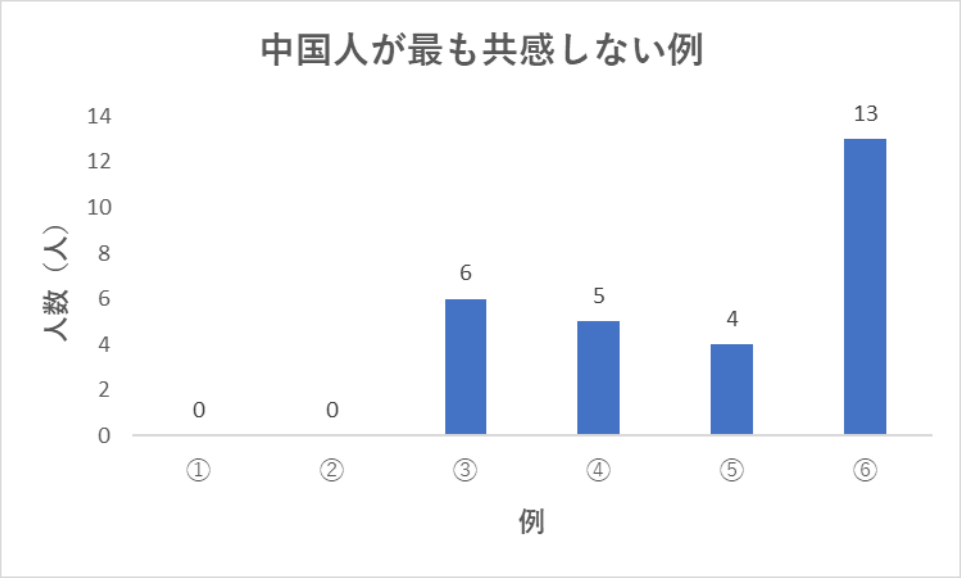

図 4

図 4 は「中国人が最も共感しない例」の結果である。最も共感しない例では例⑥が 13 人と最も多く、次いで例③が 6 人、例④が 5 人、例⑤が 4 人、例①、②はどちらも 0 人という結果であった。

例⑥を最も共感しないものといして選択した理由として挙げられたのは、「如果不能清楚地表达自己的观点，就无法与他们相处（自己主張できないと、相手と仲を深められない）。」や、「不想让人们觉得我是一个没有自己想法的人（自分の考えがない人だと思われたくない）。」というものがあった。共感できないものとして例③を選択する人が多いのは意外な結果であった。「事后被发现撒谎会更尴尬（後から嘘だと分かる方が恥ずかしい）。」、「毫无意义的虚荣（無意味な見栄だ）。」というのが選択された理由に多かった。個人的な名誉を守るために嘘をつくというのは、中国人からしても行き過ぎた面子維持行為なのかもしれない。

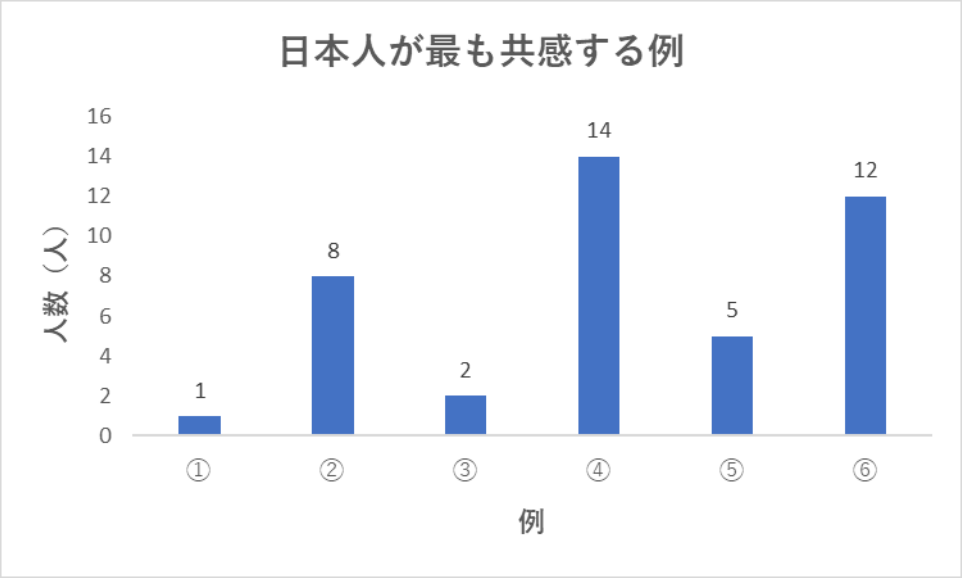

図 5

日本人の回答からは次のような結果が得られた。図 5 は「日本人が最も共感する例」の結果であるが、1 位は例④「気の知れた仲の人たちの集まりでも衣服に気を遣う」で 14 人と最も多かった。次いで例⑥「初対面の複数人との議論の場では自己主張しすぎず建設的な意見に留める」で 12 人、3 位は例②「自分が奢られた金額より高い食事を相手に奢る」の 8 人、下位は 4 位から順に例⑤「グループワークの中でミスをした際は責任を認め直ちに謝罪する」が 5 人、例③「後輩にとある理論について知っているか聞かれ、本当は知らないが多少知識のあるふりをする」が 2 人、例①「お土産を渡す時はなるべく高価で大きなものを渡す」が 1 人という結果となった。

例④を選択した理由としては、「そもそも外出する際には身なりに気を遣う」や、「古そうな服を着てる人は恥ずかしく見える」などが挙げられた。例⑥を選択した理由には、「自己中な人だと思われたくない」、「あまり発言しすぎると周りから浮きそうだから」という意見があった。やはり日本人は集団の中で自身の名誉やイメージが損なわれることに敏感であることが分かった。

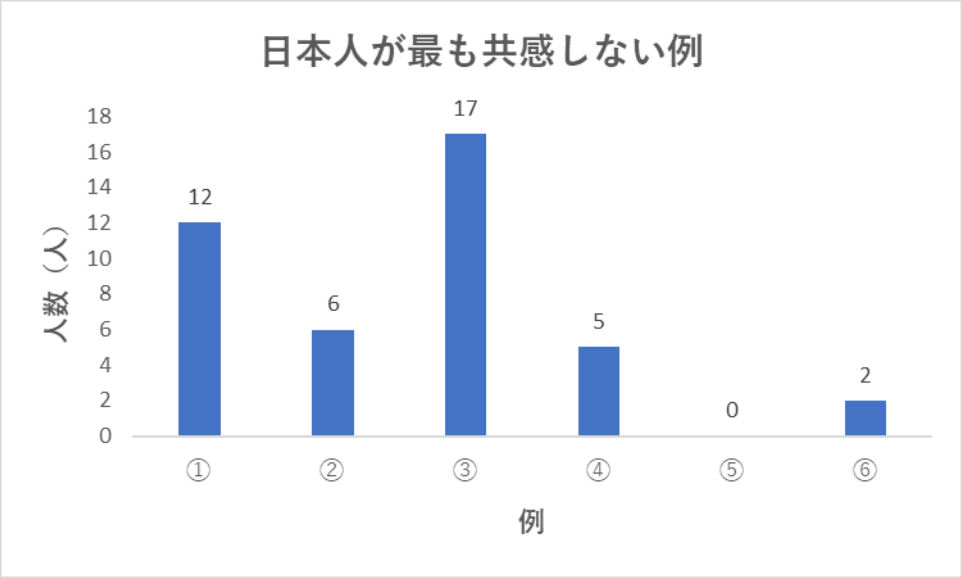

図 6

図 6 は「日本人が最も共感しない例」の結果である。日本人が最も共感しないのは 17 人が選択した例③であり、次いで例①の 12 人、3 位以降からはあまり大差なく例②が 6 人、例④が 5 人、例⑥が 2 人、例⑤を選択した人は 0 人であった。

例③を選択した理由としては、「嘘をつく意味が分からない」、「後から嘘だとばれそう」という意見がほとんどであり、これは中国人の意見と同じであった。例①を選んだ理由には、「大きさじゃなくてあげるという事実で十分」、「友達同士だったら値段までは気にしない」、「かえって向こうに気を遣わせそうだから」という意見が挙げられた。これは中国人とは相反する意見であり、相手への敬意や自己顕示の表現手段として高価で大きいものを贈る中国人に対し、日本人は受け取り側の配慮や思いやる気持ちを重視する面があった。

これらのアンケート結果から、最初に立てた〈中国人の面子は適用範囲が広く、個人間や集団内での名誉が均等に重視される。一方日本では、世間体という言葉があるように集団内での名誉を損なわないことを重視する面子観がある。〉という仮説は正しいと言える。

第三節　面子を潰されたと感じる場面の違い

アンケート質問Ⅲでは、中国人と日本人それぞれに対し、どのような場面で面子が潰されたと感じるのかについて自由記述での回答をしてもらった。

中国人で一番多かった回答は、「在公共场合被教育和辱骂的时候（公共の場で説教されたり、暴言を吐かれたりする）。」、「公众场合被大声训斥（人前で大声で叱られる）。」、「当众被别人指责（人前で他人から責められる）。」など、「人前で注意された時」であった。これは集団内での名誉に関係する面子である。他には、「在自己对别人郑重承诺却又没有做到，被别人指责的时候已（厳粛な約束をしたのに果たせず、他人から非難されること）。」や「当众演讲被打断质疑（人前で話すときに邪魔が入る）。」、「比如在公共场合不小心摔了一跤（例え

ば、公共の場で誤って転んでしまう)。」という意見も集団内での名誉に関する面子が意識された瞬間だろう。

個人間での面子に関するものとしては、「穿不合身的衣服(服のサイズが合わないこと)。」、「约定好对方失约的时候 (相手が約束を守らなかったとき)。」、「请人吃饭钱没够 (人に食事をおごるだけのお金がない)。」といった意見が挙げられた。

日本人の回答では、「自身も働いているバイトに友人を紹介したがその友人がすぐに辞めてしまった」、「自分だけ雑に扱われた時」、という意見があった。中国人の回答と比較するとやはり自分自身の能力に関係する例は少なく、一対一の場面よりは集団の中で面子が意識されていることが分かった。また、末田 (1997) は日本人の面子について「社会的な立場に見合う処遇」に関わるという結論を述べている[11]。この「処遇」が、「集団の中で意識される名誉」なのだと私は解釈した。

しかし、最も多かった回答は「わからない」、「気にしたことがないので思いつかない」であった。第一節でも「面子を日常生活において気にする」と答えた日本人が半数以下だったように、そもそもの面子に対する意識からして、日本人は中国人よりもさほど関心がないことが分かる。

これらの日中比較による結果からも、この章の序盤に立てた仮説〈中国人の面子は適用範囲が広く、個人間や集団内での名誉が均等に重視される。一方日本では、世間体という言葉があるように集団内での名誉を損なわないことを重視する面子観がある。〉は支持されたと言える。

[11] 末田 清子, 1997, 中国人学生と日本人学生の「面子」の概念及びコミュニケーション・ストラテジーに関する比較の一事例研究, 社会心理学研究, 13 巻, 2 号, p. 103-111

第四章

面子に関する研究は、それが行われた時代やどこまでの範囲を研究対象にするかによって、出る結論が微妙に違ってくる。本研究では、中国人と日本人の面子について、その語義の違いから実際の生活での意識の違いまでについて触れることができた。今回の私の研究における結論は、

Ⅰ．日本人より中国人の方が面子を気にする。

Ⅱ．その理由は中国人の方が面子の適用される範囲が広く、個人と集団の両方で名誉を守るための行動がとられる一方、日本では主に集団の中で名誉を損なわないための行動がとられるからである。

というものである。

翟（2019）は面子を次のように定義した[12]。

すなわち、〈面子〉とは、ある人間が「顔」に関わる行為を行った後に、他者から与えられる評価、判定および他者の心の中での序列、心理的地位である、と。〈面子〉は本質的に、個人のパフォーマンスが創り出すイメージの累計から導き出されるものであり、簡単に言えば、他者から尊敬を受けられるだろうかと思う気持ちや行動を指す。

この言葉を借りれば、面子とは、本質的にその人の行動やパフォーマンスが積み上げたイメージから構成されるものであり、したがって面子は静的なものではなく、社会的な相互作用によって絶えず変化するものなのである。ただでさえ流動的で、何を指すのかいまひとつ分からない価値観であり、それが国を跨げばなおさら理解し合いにくくなるのは当たり前なのだ。このような微妙な差異によって、一方が守りたい面子も一方にとってはどうでもいいことでもあり得るし、その逆もある。大事なのは、他人と交流する際自身の価値観だけで物事を判断しないことである。自身の価値観だけでなく、その国特有の、その人特有の価値観を相手が持っていることを常に念頭に置く必要があるのだ。そのためには、様々な立場の価値観を知ることが大切だ。本稿が、自身とは違う価値観について知るための手がかりになれば幸いである。

今回行ったアンケート調査では、中国人と日本人で回答者数に大きく差があった点や、回答者の年齢も大学生などの若年層に偏ってしまった点など、改善しなければならない点もいくつかあった。また、同じ国民でも男女によって面子に対する意識には差が出てくると考えられるが、本稿では男女の差については特に触れることができなかったため、それも今後の課題としてまた精査したい。

---

[12] 翟学伟, 朱安新と小嶋華津子. 2019. 現代中国の社会と行動原理 : 関係・面子・権力. 東京: 岩波書店.

参考文献

池田和臣，山本真吾，山口明穂と和田利政. 2023. 旺文社国語辞典. 第十二版. 東京: 旺文社. p.838

犬飼裕一. 2021. 世間体国家・日本：その構造と呪縛. 東京: 光文社.

香坂順一. 1982. 現代中国語辞典. 東京: 光生館.p.851

ザンカリン. 2019. 日中の「面子」という語義の異同 に関する調査―実際の使用場面から―. 日本語教育:方法研究会誌. 25 巻，2 号, p.62-63

ザンカリン. 2019-2020. 中国人における経済力と能力に関わる面子意識についての調査. 日本語教育方法研究会誌. 26 巻，1 号, p.56-57

薛鳴. 2019. 人間関係はいかに言語行動に影響するか ―中国語社会と日本語社会の比較から―. 待遇コミュニケーション研究, 16 巻，特別寄稿

末田清子. 1993. 中国人が持つ面子の概念と日本人とのコミュニケーション. 年報社会学論集, 6 巻, p.199-202

末田 清子, 1997, 中国人学生と日本人学生の「面子」の概念及びコミュニケーション・ストラテジーに関する比較の一事例研究，社会心理学研究, 13 巻, 2 号, p. 103-111

翟学伟，朱安新と小嶋華津子. 2019. 現代中国の社会と行動原理：関係・面子・権力. 東京: 岩波書店.

中嶋嶺雄. 1990. 中国人と日本人ここが大違い. 東京. 文芸春秋.

西谷裕子. 2009. 身近なことばの語源辞典. 東京: 小学館.p.272

日本中国語学会. 2022. 中国語学辞典. 東京: 岩波書店.p.553

山田忠雄，倉持保男と上野善道. 2020. 新明解国語辞典. 第八版. 東京: 三省堂.p.1544

謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々にご支援いただきました。

本研究のために調査にご協力いただいた中国人学生、日本人学生ならびにそのご家族のみなさまに心から感謝いたします。

特に、二平凌吾氏には、中国人学生へのアンケート調査を進めるにあたり、格別のご助力を賜り、心より感謝申し上げます。

指導教授・安田淳先生には、研究の着想から、調査、論文執筆まで多くのご指導をいただきました。

2021 年の 4 月、入学と共に中国語の授業でお会いしてから 4 年間、安田先生には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

研究会に所属してからは、以前にも増して中国や日本の安全保障について深く学ぶ機会を数多くいただき、大変有意義な学びを得ることができました。一番印象に残っているのは、2023 年の江田島での夏合宿です。カッター体験で私がカッターを漕ぐ様子を褒めていただいた経験は、後世まで語り継ぎたい誇らしい思い出です。

最後に、所属する安田淳人文科学研究会のみなさまには多くのご支援をいただきました。お礼申し上げます。

ありがとうございました。